

優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

■ 2026年10月18日(日) 13:50～14:30 | 皿ポスター会場B-1

[AP] 優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

[AP-02-B] AI支援メタ解析の再現性に関する検証—睡眠薬使用と認知症リスクの関連を例とした検討—

籾 祐司 ((株) 南山堂 学術研究委員会)

[AP-04-B] KH Coderによる調剤事故自由記載の類型化と再発防止重点領域の抽出

林 輝明^{1,2}, 佐藤 裕介³, 吉田 昌美³ (1. (株) なの花西日本 なの花薬局 石見長久店, 2. 兵庫医科大学大学院, 3. (株) なの花西日本)

優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

2026年10月18日(日) 13:50～14:30 | ポスター会場B-1

[AP] 優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

[AP-02-B] AI支援メタ解析の再現性に関する検証—睡眠薬使用と認知症リスクの関連を例とした検討—

籾 祐司 ((株) 南山堂 学術研究委員会)

【目的】生成AIを用いたメタ解析支援は試みられているが、同一条件下で複数の生成AIが同様の統合結果を示すかは十分に検証されていない。著者らは2024年末、医療現場で抱く臨床疑問への応用可能性の検証として睡眠薬使用と認知症リスクの関連についてAI支援メタ解析を実施しOR 1.35を得た。当時は再現性の検討に至らなかったことから、本研究では生成AIを用いたメタ解析の再現性をあらためて検討した。

【方法】既存メタ解析5報から個別研究を抽出し、重複除外後16研究を同定した。効果量と信頼区間が確認できた8研究について、対象論文・使用数値をステップごとに記録しプロトコルを参照しながらメタ解析を実施した。効果量はORに統一し、DerSimonian-Laird法によるランダム効果モデルを用いた。GPT、Gemini、Claudeの3モデルに同一データおよびプロトコルを提示し再解析を行った。

【結果】3モデルの統合効果量はほぼ一致した（GPT: OR 1.13、Gemini・Claude: OR 1.109）。過去解析のOR 1.35との差については、感度分析により特定研究の採否が統合効果量に影響することが確認された。

【考察】本研究では、過去解析の再現困難性と条件固定後の統計計算結果の再現性を区別して検討した。解析内容の全記録により計算結果の再現性は担保された一方、統合効果量は研究選択条件によって変動した。過去解析ではAI内部処理に依存していたため、使用論文・使用数値・研究選択過程を十分に復元できず、結果の根拠を事後的に検証することが困難であった。その結果として、解析焦点の変化や採用研究の違いが解析結果に影響した可能性が示唆された。したがって、AI支援メタ解析を応用する際には、結果のみではなく根拠となる使用論文・使用数値・研究選択過程を追跡可能な形で提示させる運用が重要である。

優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

2026年10月18日(日) 13:50～14:30 | ポスター会場B-1

[AP] 優秀演題候補セッション（ポスター）・研究発表部門

[AP-04-B] KH Coderによる調剤事故自由記載の類型化と再発防止重点領域の抽出

林 輝明^{1,2}, 佐藤 裕介³, 吉田 昌美³ (1. (株) なの花西日本 なの花薬局 石見長久店, 2. 兵庫医科大学大学院, 3. (株) なの花西日本)

【目的】全国的な事例収集・分析事業は存在する一方、保険薬局の自由記載を用いて事故像を体系的に類型化し、再発防止の優先課題として整理した報告は多くない。本研究は、社内事故報告（2020から2025）の調剤事故（誤薬が患者へ交付された時点）441件を対象に、自由記載をテキストマイニングにより類型化し、事故像の特徴と再発防止に向けた優先課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】個人情報除去した自由記載をKH Coder 3で形態素解析（名詞・サ変名詞中心）し、見出し語や定型語（例：処方、調剤、入力、確認等）をストップワードに追加した。文書クラスタリング（k=9）で類型化し、特徴語を抽出した。さらにKWICで語の前後文脈を確認し、各類型の解釈の妥当性を担保した。

【結果】9類型は、C1併用禁忌・重複見落とし(n=80)、C2一般名/先発後発・在庫都合の選択ミス(n=39)、C3棚卸・在庫差異で発覚(n=49)、C4ジャーナル/コピー運用の照合逸脱(n=29)、C5照合・業務手順逸脱(n=70)、C6画面表示の見落とし(n=40)、C7期限切れ・期限管理(n=27)、C8疑義照会・訂正プロセス(n=48)、C9用法・用量/印字不一致(n=59)であった。KWICでは、手帳・ポップアップによる併用把握、規格差分や先発希望・在庫不足の文脈、ジャーナル運用、棚卸・期限リスト、用法（朝食/夕食）変更の見落とし等が確認できた。

【考察】事故は情報把握、薬剤選択、照合手順、在庫・期限管理、疑義照会対応の観点で整理され、類型ごとに介入点が異なることが示唆された。対策は一律の注意喚起ではなく、画面表示の工夫、規格差分確認の仕組み化、終業前後を含む照合手順の簡素化・標準化、棚卸/期限チェックの周期と担当者の明確化、疑義照会の判断基準共有と情報共有手順の整備が重要と考えられた。今後、類型別に監査項目・教育内容を最適化し、運用変更の効果検証と優先順位付けにつなげる。